

第6回 恵み野商店街活性化振興計画策定検討委員会【実施概要】

日 時	平成24年5月30日(水) 19:00~20:00
場 所	恵庭リサーチ・ビジネスパーク 3階 大研修室
出席者	◆恵み野商店街活性化振興計画策定検討委員(11名) ◆事務局(5名) ◆市関係部署(4名)
委員会次第	
1. 開会	
2. 会長挨拶	
3. 議事(別紙「議事要旨」参照)	
(1) 報告事項	
①第5回検討委員会の報告について(資料1)	
■資料1に基づき、事務局より説明	
(2) 協議事項	
①恵み野商店街の活性化と振興計画策定に向けた検討報告書について	
■資料2に基づき、事務局より説明した後協議を行った。	
4. その他	
(1) 今後の委員会の開催について	
■委員より今回の委員会で指摘された事項については事務局で修正を行い、6月末に会長、副会長が代表して市長に検討報告書を提出することで良いという提案があり、委員会としても合意が得られたため、委員会の開催については今回をもって終了となった。	
以上	

【報告事項】

《事務局》

第5回検討委員会の報告（資料1）

【協議事項】

「恵み野商店街の活性化と振興計画策定に向けた検討報告書について」

《事務局》

検討報告書案の説明（資料2）

《会長》

どうもありがとうございました。今、事務局から計画書の内容について説明がありましたが、文言の表現等についてご意見を伺いたいと思います。特に、8ページの「活性化のための具体策」について、何か不足しているものや追加すべきものがあれば意見を伺いたいと思いますが、ご意見のある方はおられますか。

《委員F》

今回できあがってきたものを見て、その中で協働などいろんな具体策が示されていますが、この中でどれを私たちの商店街の中でやっていくかということについて、まだ頭の中が整理できていません。

商店街のことなので当然ですが、いろいろ新しい事業をやる時には商店会が音頭を取って行政や町内会に応援してもらおうことと思いますが、何からどうやっていくかというところが悩みどころです。

《委員K》

すぐできそうなものと、そうでない部分が混在していると思いますが、今までの委員会の話の中で出てきた部分では、9ページのステップのところ、これについては商店街が先に動くべきものであるなど、役割を明確にした方が良いと思います。

《委員P》

前回の会議の際、今回は今までの検討内容を報告書としてまとめて提示するというように事務局をお願いをして頂いたものであります。作りとして、専門的にどうかということよりも、今まで五回の話し合いをしてきて、私たちが議論してきたものをずっと一回目から掘り起こしをされ、非常によくまとめられています。

具体策については、私たちみんなが知恵を出し合って、こういうことをしたら、あるい

はこういう方向に向かっていったら、恵み野商店街はもっともっと生き活きとして元気になるのではないかということで、いろんな意見を出したものがまとめられたものですから、先ほど委員Fさんが言われたように、町内会がやるのか、商店会がやるのかということについて、今度これを具体化するのには、組織を作ったら良いのか、その都度実行委員会が良いのか、行政主導が良いのかなど色々なやり方が出てくると思うので、それは今この検討委員会であらう、こうしろと言うことはできない、これからのことだと思います。

4ページ、5ページにある、それぞれのご意見のエキスがここに載っているが、この報告書の作りとして、例えば市民の意見であれば、アンケート結果をA3一枚にまとめた資料がこれまで委員会で提示されているので、そこからピックアップしたとわかるものを付けていただければ、これから具体的に進める上で、そう言えばこういうものもあったということにも繋がるのではないかと思います。

《委員A》

私も委員Pさんと同じように、基本線これで良いと思います。今後どういう主体でやるかはここで議論することではないというお話でしたが、やはり「自助・共助・公助」という言葉が7ページでも出ていますが、この方向性がステップの項目である程度書かれていた方が良くと思います。どこが主体で、こうした方がいいという方針が少しでもあれば、今後動くのにも役立つと思います。

《会長》

8ページのところで、「花壇の植栽やルールづくり」とありますが、私が会長をしている恵み野北町内会と、ハイテク、恵み野花協が連携し、ハイテクの駐車場の前に恵み野花協の花壇があり、その一部を三者で今月20日と27日の二回作業をし、整備しました。これは、この夏のロンドンオリンピックに合わせた取り組みです。

この話はあくまで一例ですが、商店街の方ばかりではなく、地域の町内会、企業など、いろいろな方がいるので、みなさんが協力し合えばできないことはないと思います。

《委員D》

報告書の作りとしては、まあこういうことだろうということで、出来上がっていると思います。ただ、まだ一つ納得感がないのは、やはりわかりづらいこと。

典型例として、8ページで目的と手法が入り混じっています。具体例を申し上げますと、「子育て世代への対応」のところで、「商店の仕事の体験学習」とありますが、これは何のためにするのか、どういうことなのかがわかりません。「子育て世代」というとお母さんたちの話になり、子どもではないですよ。ところが中身に書いてある「体験学習」、これはお母さんにさせるのか、子どもたちにさせるのかがはっきりせず、子どもたちにしてもらえば、「子育て世代への対応」というくりでは少しおかしくなります。狙いとしては、

次の時代のユーザーを育てる、小さいうちから商店街のお客様になっていただく気持ちを強めていく、私たちの用語で言うと「ロイヤリティを高める」、「帰属性を高める」という策です。そして、お母さん、子どもさんをひっくるめて商店街を身近な存在として感じてもらうということです。ところがここでは目的が書かれていません。

こういうところが随所に見られるので、言わんとするところはわかるが、誤解を与えないように、目的になっているものとただの手法として書かれているものの精査をやっていただき、仕分けをするなり、補足説明をするなり、若干表現を変えたりするなど、最後の仕上げの時まで取り組んでいただければと思いました。

この時点でこういう混乱があるために、次の9ページが余計ややこしく見えます。具体策に優先順位を付けたということだと思いますが、ステップになったときに全部並列にされてしまっています。先ほどお話のあった担い手の問題で、まず仕組みを作るのは急ぎだと考えます。ステップ1の中でもさらに優先順位があると思いますが、そうして見た時にステップ1の一番下の方で「商店街と地域住民の協議の場づくり」というのがあります。このあたり、順序立てといるものがあるのではないかと思います。悪くても、ステップ1やステップ2の中で中くくり、見出しを設けるともっとわかりやすくなるのではないのでしょうか。

《事務局》

あえて8ページ、9ページについてご意見を出して頂いているのは、果たしてこの内容がみなさん言ったものかどうか、あるいは言っても報告書に載せるのに適切でない場合がありますよね。それをあえて今出して頂いているところで、全部言っていただいた方が、我々もこれから最後の成果品に向けてそういう部分を直していかなければいけないと思いますので、会としてこの部分がまずいというところがあれば遠慮なく出して頂いて構いません。

《委員D》

それではもう一点申し上げますと、8ページの「魅力ある個店づくり」のところ、**「100円セール、福引き、ワンコインランチなど」**と書いてありますが、これはこういうところに載せるには具体的すぎないか、これから様々な販促策やイベント策を考える時に、妙にこれだけが縛りになってしまうといけないのではないか、ここまで具体的にされるとちょっと辛いのではないかという気がして見ていました。

《会長》

その他、ご意見等ございませんか。

それでは、以上ご指摘のあった事項について、事務局の方で訂正の方よろしく願います。

【その他】

「今後の委員会の開催について」

《事務局》

次回の開催の予定ですが、6月25日の週の中でもう一回開きたいと思っておりますが、今いろいろと委員さんから意見を出して頂きましたので、もう一回ご意見を頂いたほうがよいのかについてお伺いしたいと思います。事務局で訂正した内容についてもう一度検討して頂いた方がよいのか、訂正したもので了解して頂けるものなのかお伺いしてよろしいでしょうか。

《会長》

今事務局からご意見がありました、これに対して何かご意見ございますか。

《委員P》

先ほど私はこの作りでいいのではないかとお話し、皆さんも良いとのことでした。委員Dさんからは専門的にこういう表現は変えたほうが良いとか、この表現はちょっと具体的すぎるのでカットした方が良いというご意見が出ました。修正箇所がたくさんこの場に出て、基本的な方向性も変わるのであれば、もう一度委員会が必要かと思いますが、ほとんどこれで完成している気がします。後は部分的に、先ほど言われたことをご指導頂きながら、この報告書案を報告書として事前にお配り頂き、なおかつご意見があればそれを事務局で引き取ってもらうことで良いと思います。

本来3月で終わる委員会を、みなさん都合を付けて今日また夜の7時から委員会を行いました。私の意見としては、事務局に修正は一任して、報告書案を取って、会長・副会長さんにお任せし、市長に報告書を提出すれば、6月末に再度集まる必要はないと思いますが、お諮り願います。

《委員I》

私も委員Pさんのご意見に賛同します。今までの検討委員会で相当意見交換してきましたが、この報告書でそれをほとんどまとめた具体的な内容となっていて、これで結構だと思うので、よろしく願います。

《会長》

今お二人の方からご意見がありました、それに対して反対のご意見等はございますか。

それでは、6月25日の週に会長と副会長がということで、委員会はもうやらないという方向でよろしいですか。

《事務局》

それであれば、先ほど委員Dさんからいろいろご意見を頂きましたので、事務局の方で再度精査して、6月25日の週に会長、副会長から市長に報告書の提出として委員会に代えさせて頂きたいと思います。よろしければ、そういう風にしたいと思います。

《委員F》

一応こうやって内容が決まり、この会議が終了しましたとなった時、その次はどうなりますか。この文書が商店会や町内会に行って、こういう結果となったので、ご協力くださいとなるのでしょうか。

《事務局》

まず、この委員会については策定し終わった段階で要綱上解散となっております。この検討委員会の報告書につきましても、当初取り組みというもので考えていましたが、取り組みとなると荷が重いというか、やらなければならないという感じになりますので、具体策として載せております。

委員会としてはこういう策もあるという形で考えておりますので、その後は商店会や地域の町内会で協力してやって頂くということになります。

《事務局》

通常こうした委員会は市長から委任状が出ていますので、最終日は必ず市長が出て、例えば最終日の検討内容について多少修正があっても、後で修正したものを送りますということで、セレモニー的にやるんです。

ただ今回の場合はみなさんよろしいということで、委員Fさんが心配しているようにこれではたぶんそれぞれの団体がやれと投げられた形になるのではないかと恐れられているのではないかと思うのですが、具体策について基本的には8ページ、9ページと書いています。ただ、商店街・地域・行政支援と並べているものは単独でやるべきことばかりではありませんので、当然町内会と商店会が会う場が必要になってきます。それは我々知らないということではなく、当然中に入ります。そういう音頭は取っていききたいと思います。

委員Fさんは先ほど全部が今すぐできるわけではないとおっしゃっていましたね。それはやはり、商店街の方でどれから先にやるかは考えて頂きたい。それぞれがそれぞれの役割でやっていくのが、「自助・共助・公助」の最初の発進になるかと思います。まず皆さんでこういうものを協働で作りましたから、次はこれから自助ということになると思います。我々行政もここまで関わって、後は全く知らないということはありませんので、これからが着手・実施に入ると考えています。

先ほど会長が言われた、町内会とハイテクと一緒にやっているのが例となると思いますが、例えばその会を活かしていただいて、商店街の人にも入って頂いて何かやるとか、そ

ういう場もあるかなと思います。今すぐどうこうはないかもしれませんが、そういう場を我々として作っていきたいと思っています。

《委員P》

委員Dさんが言われたように、協議の場づくり、組織づくりは特に急がれるというのは、今部長もおっしゃった通りですよ。

ここに色々出ていますが、例えば8ページで出ている「マップ・情報誌の発行」は商店・商店街になっているが、これを行政の広報に載せるなど様々な形で出来ますよね。そうすると、商店街、地域、行政と本当に少人数で集まって、これから先、優先順位としてどれからやっていくかという協議もしていかなければならないと思います。

その時に、委員Fさんが、「私たちが音頭取るのですか？」と言われたから、部長が「いや、行政が音頭取ります」と言ったのですから、やってくれると思います。

私が一番心配するのは、作ったのはいいけど具体的にどう進めていくかという部分。そのための仕組みづくりをどうするかというところは大きいのではないかと思います。

《委員D》

この報告書は検討したことの報告書であって、提言とは一言も言っていません。それにしても中身を見ると、提言的要素が含まれています。そうすると結語がありませんね。本来であれば7番として、検討委員会としては以上を検討しましたが、これらをどう実現していくか、速やかに実現するためには商店会さんが中心となって、住民との協議の場を作っていくべきだというような結びの言葉を作ったほうが良いです。今まで検討してきた経緯から言えば、行政が全部やれというような丸投げの結びの言葉にはなりません。

商店会さんが中心となり、速やかに仕組みづくりからスタートすることを望むでもいいですし、そういう言葉があれば委員Fさんも安心できるのではないのでしょうか。この委員会はただの検討の場でしたが、今度は実務部隊がどうやって実行していくかという場であり、性質が違います。それはまさに民主導でやらなければいけません。地域と商店街が一緒になって考えて、足りないところを行政に願います、そういう構造にしかならないしその方が望ましい、当たり前な姿。そういう内容の言葉がどこか結びにあるといいですね。

そこで商店会としてやれること、皆さんの協力がなければできないこと、そういうことをこの報告書を元に議論していけば良いのではないのでしょうか。そうすると、できないことも出てくるかもしれません。

そうした結びの言葉が入ることを前提にして、この委員会は閉会して良いと思います。

《委員F》

いろいろなイベントをやっていて、商店街でイベントを何やっているかわからない、もっと知っていたら行くのにといい意見が結構多く、今回これをやるにあたりそういう情報

を発信していかなければいけません。我々商店は昔からチラシが皆に知らせるものだと
して活用してきましたが、実際はどうなのでしょう。

例えば専門学校生なら新聞は取らないだろうし、むつみ会の方だったらどういうもので
あったら見てもらえるのか、広報のようなものがあれば載せてもらえるのでしょうか。

学校の情報は文章なのですか、それともネット等ですか。

《委員 K》

掲示板が多いですね。共通の掲示板にチラシ等を貼って、それを学生が見ることが多い
です。学校の情報とイベント等のお知らせを貼るのは別々の場所ですが。

《事務局》

我々も優良田園住宅を売った時、田んぼの真ん中に家を建てて住みたい人もいて、そう
いう方は一般の不動産の情報など見ていませんので、何を見ているのか調べてみると特定
の雑誌とインターネットでした。今委員 F さんが言ったのはそこで、それをわからないと
情報も出せません。それは、たまたまここで知り合いになったと言うと失礼ですが、聞いて
みて、頼めるか聞いてみた方が早いと思います。そういうことがこれからやることにな
るのではないかと思います。

《委員 I》

老人クラブについては、憩いの家で 4 地区それぞれ月 2 回の定例会をやっています。何
かイベントをやるのであれば、憩いの家にはポスター等があれば定例会で報告し、参加の呼
びかけもできます。そういうところをもし利用するとしたら、例会でご案内もできます。

《委員 K》

そうした掲示を見て、学生が行くかどうかというのはまた別。どうしても学生は自分に
メリットがあるものでないと行きません。例えば献血車が来た時に、献血をすると焼きそ
ば弁当がもらえるとなると、学生は喜んで行くというのは目にします。ちょっとしたプラ
ス要素があると、学生も行くことになると思います。

《委員 F》

知っていて魅力がないから来ないというのは仕方ありませんが、やっているのに知らな
いと言われるのは宣伝活動が足りないということですし、いろんな世代の方に来てもらい
たいです。チラシであれば主婦の方が見たら片付けてしまって、一家で一人くらいしか見
ていないことになります。いろんな世代の人に知らせる方法を考えたいです。

《委員 I》

来月の花さんぽストリート祭にしても、もっと地元の西町内会にきちんとアピールしたらどうでしょうか。役員に聞くとそういう連携の具体的な話がないと言っています。もっと協力体制を取ったほうがいいのではないのでしょうか。

《会長》

その他、何かご意見ございませんか。

それでは、特になければ、以上をもちまして本日の検討委員会を終了いたします。

昨年、11月4日の検討委員会設置から計6回にわたり、恵み野商店街活性化のために、いろいろと議論を交わし、さらには、2月25日にはシンポジウムを開催し、こうして一つの方策を見出すことができました。

運営委員会の要綱にありますように、委員の任期は計画書が策定される日までとなり、今回をもって解散となります。

この間の皆様のご協力に感謝し、今回をもって終了とさせていただきます。

これまで大変おつかれさまでした。